

平成27年度 全国学力・学習状況調査

調査結果のポイントについて ～北海道（公立）における調査結果～

本資料は、国が公表した「平成27年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」に基づき、全国と北海道の公立学校の調査結果の比較ができるようにまとめたものです。

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■ 教科に関する調査	
■ 児童生徒質問紙調査	
■ 学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語・算数・理科〉.....	4
■ 中学校〈国語・数学・理科〉.....	15
■ 過去の同一問題との比較.....	28
4. 質問紙調査	
■ 「2. 結果の概要」で示した項目	29
■ その他	
・学習に対する関心・意欲・態度	
〈理科〉	34
〈国語〉	38
〈算数・数学〉	39
・学習状況	40
・学習時間等	41
・基本的生活習慣	41
・規範意識	42
・理科の指導方法	43
・チームティーチング（理科）	46
・コンピュータなどを活用した教育（理科）	46
・家庭学習（理科）	46
・指導方法・言語活動	47
・家庭学習	48
・地域の人材・施設の活用	48
・授業の目標・振り返り	49

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）※ 理科は平成24年度以来3年ぶりに実施。また、（A）と（B）を一体的に出題。
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成27年4月21日（火）

6 平成27年4月21日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,080	1,076(99.6%)	42,068	小学校	20,033	20,005(99.9%)	1,061,301
中学校	610	606(99.3%)	40,966	中学校	9,731	9,691(99.6%)	1,016,737
合 計	1,690	1,682(99.5%)	83,034	合 計	29,764	29,696(99.8%)	2,078,038

※ 小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校、特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む

※ 対象児童生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数(校)に含まれていない

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

【用語説明】

語 句	説 明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

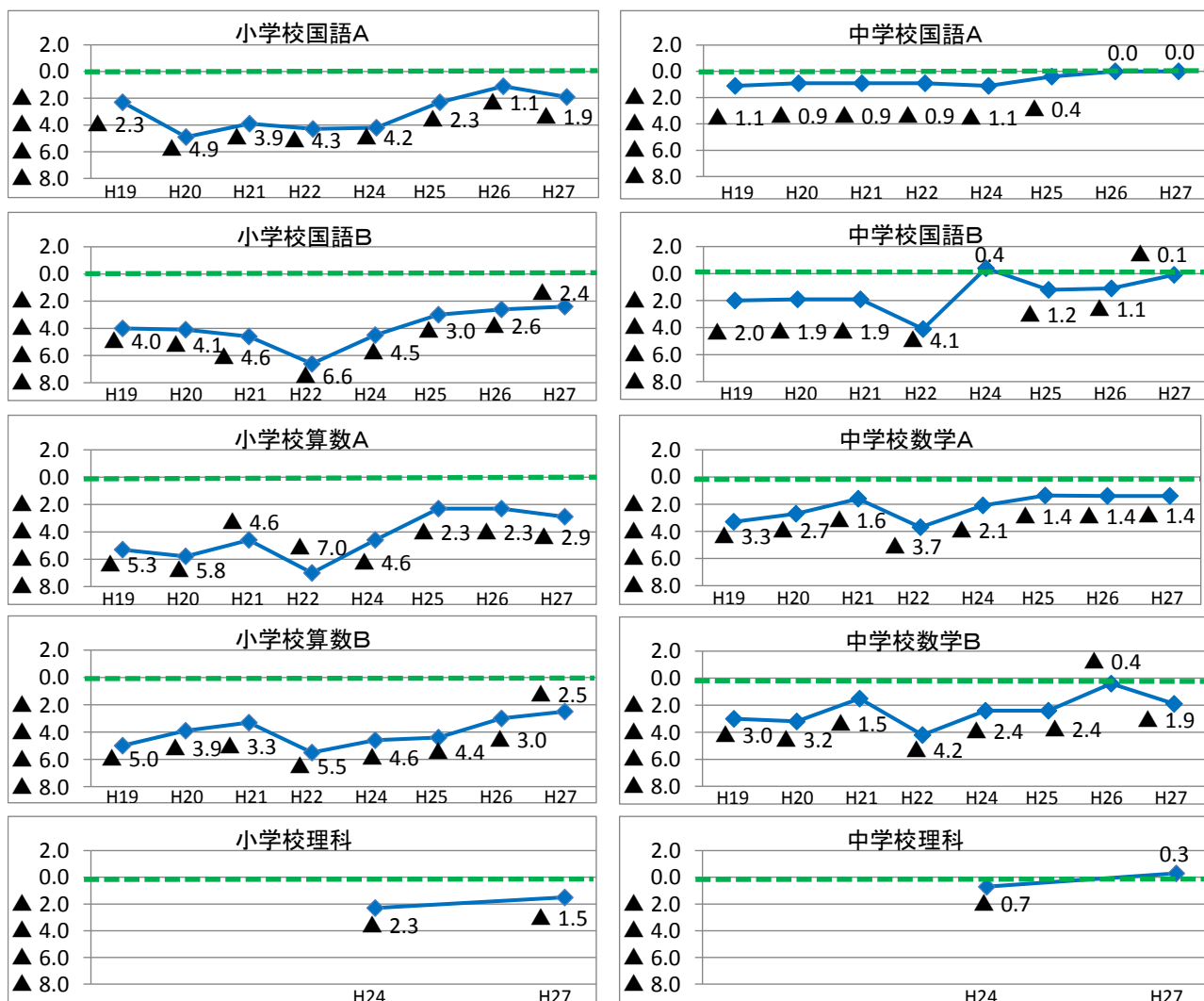
- 前回と比べて、全国の平均正答率との差が、中学校国語A、数学Aの2教科で同じ、小学校国語B、算数B、理科、中学校国語B、理科の5教科で差が縮まり、そのうち、中学校国語A、中学校理科は全国以上、小学校国語A、算数A、中学校数学Bの3教科で差が広がった。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が2.9ポイント以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.9ポイント以内。

各教科の平均正答率

()は平成26年度、理科は平成24年度

		小学校					中学校				
		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平均正答率 (%)	道	68.1 (71.8)	63.0 (52.9)	72.3 (75.8)	42.5 (55.2)	59.3 (58.6)	75.8 (79.4)	65.7 (49.9)	63.0 (66.0)	39.7 (59.4)	53.3 (50.3)
	国	70.0 (72.9)	65.4 (55.5)	75.2 (78.1)	45.0 (58.2)	60.8 (60.9)	75.8 (79.4)	65.8 (51.0)	64.4 (67.4)	41.6 (59.8)	53.0 (51.0)
平均正答数 (問)	道	9.5/14 (10.8/15)	5.7/9 (5.3/10)	11.6/16 (12.9/17)	5.5/13 (7.2/13)	14.2/24 (14.1/24)	25.0/33 (25.4/32)	5.9/9 (4.5/9)	22.7/36 (23.8/36)	6.0/15 (8.9/15)	13.3/25 (13.1/26)
	国	9.8/14 (10.9/15)	5.9/9 (5.5/10)	12.0/16 (13.3/17)	5.9/13 (7.6/13)	14.6/24 (14.6/24)	25.0/33 (25.4/32)	5.9/9 (4.6/9)	23.2/36 (24.3/36)	6.2/15 (9.0/15)	13.3/25 (13.3/26)

全国と北海道の平均正答率の差



※ H19～H21、H25～H27は悉皆調査で実施

※ H23は、震災の影響で国は従来の調査としての実施を見送り、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載

※ 数値は、「北海道の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差で算出

■ 児童生徒質問紙調査（グラフはP29～P31に掲載）

（ ）内は質問番号

- 国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で61.8%、中学校で64.2%であり、昨年度と比べて、小学校で1.9ポイント、中学校で4.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で3.7ポイント高い。（小48、中48）
- 算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で64.5%、中学校で53.8%であり、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で2.3ポイント低い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で2.2ポイント低い。（小58、中58）
- 理科の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で85.6%、中学校で66.4%であり、平成24年度と比べて、小学校で3.2ポイント高く、中学校で1.0ポイント低い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で4.5ポイント高い。（小69、中69）
- 家で、自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合は、小学校で64.2%、中学校で49.0%であり、昨年度と比べて、小学校で2.4ポイント、中学校で2.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で0.2ポイント高い。（小20、中20）
- 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で54.6%、中学校で63.0%であり、昨年度と比べて、小学校で3.2ポイント、中学校で1.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.1ポイント、中学校で6.0ポイント低い。（小13、中13）
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたり（勉強のためのテレビやビデオ・DVD、テレビゲーム除く）する児童生徒の割合は、小学校で39.6%、中学校で32.3%であり、昨年度と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で1.5ポイント低い。全国と比べて、小学校で3.5ポイント、中学校で1.8ポイント高い。（小10、中10）
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム含む）をする児童生徒の割合は、小学校で22.6%、中学校で24.5%であり、昨年度と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で0.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.6ポイント、中学校で4.0ポイント高い。（小11、中11）

■ 学校質問紙調査（グラフはP31～P33に掲載）

（ ）内は質問番号

- 国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合は、小学校で78.8%、中学校で48.5%であり、昨年度と比べて、小学校で5.1ポイント、中学校で8.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.3ポイント、中学校で2.9ポイント低い。（小89、中87）
- 算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合は、小学校で82.4%、中学校で55.6%であり、昨年度と比べて、小学校で4.2ポイント、中学校で7.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.1ポイント低く、中学校で0.4ポイント高い。（小91、中89）
- 理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合は、小学校で8.9%、中学校で30.7%であり、平成24年度と比べて、小学校で4.7ポイント、中学校で14.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で1.1ポイント、中学校で3.4ポイント高い。（小97、中95）
- 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持の徹底を「よく行った」学校の割合は、小学校で61.1%、中学校で71.1%であり、昨年度と比べて、小学校で0.5ポイント、中学校で1.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.1ポイント、中学校で7.2ポイント高い。（小44、中44）
- 授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書く指導を「よく行った」学校の割合は、小学校で58.4%、中学校で32.3%であり、全国と比べて、小学校で0.5ポイント、中学校で1.6ポイント高い。（小34、中34 ※新規）
- 授業の冒頭で目標を児童生徒に示す活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で67.3%、中学校で50.0%であり、昨年度と比べて、小学校で6.9ポイント、中学校で7.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.8ポイント、中学校で6.3ポイント低い。（小29、中29）
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で54.3%、中学校で39.1%であり、昨年度と比べて、小学校で9.0ポイント、中学校で5.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で4.9ポイント高い。（小30、中30）

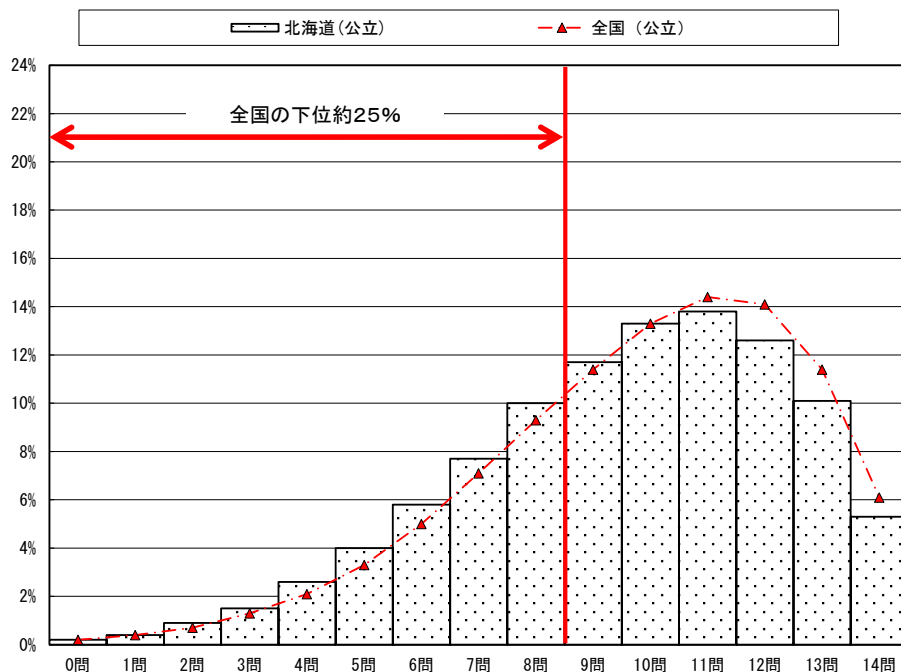
3. 教科に関する調査

■ 小学校国語A

【概要】

- 平均正答率は、68.1%
- 全国の平均正答率との差は、－1.1ポイント（平成26年度）から－1.9ポイントに広がった

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,068	9.5 / 14	68.1	10.0	2.9
全国（公立）	1,061,264	9.8 / 14	70.0	10.0	2.8



正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0 問（0.0%）	0.2	0.2
1 問（7.1%）	0.4	0.4
2 問（14.3%）	0.9	0.7
3 問（21.4%）	1.5	1.3
4 問（28.6%）	2.6	2.1
5 問（35.7%）	4.0	3.3
6 問（42.9%）	5.8	5.0
7 問（50.0%）	7.7	7.1
8 問（57.1%）	10.0	9.3
9 問（64.3%）	11.7	11.4
10 問（71.4%）	13.3	13.3
11 問（78.6%）	13.8	14.4
12 問（85.7%）	12.6	14.1
13 問（92.9%）	10.1	11.4
14 問（100.0%）	5.3	6.1

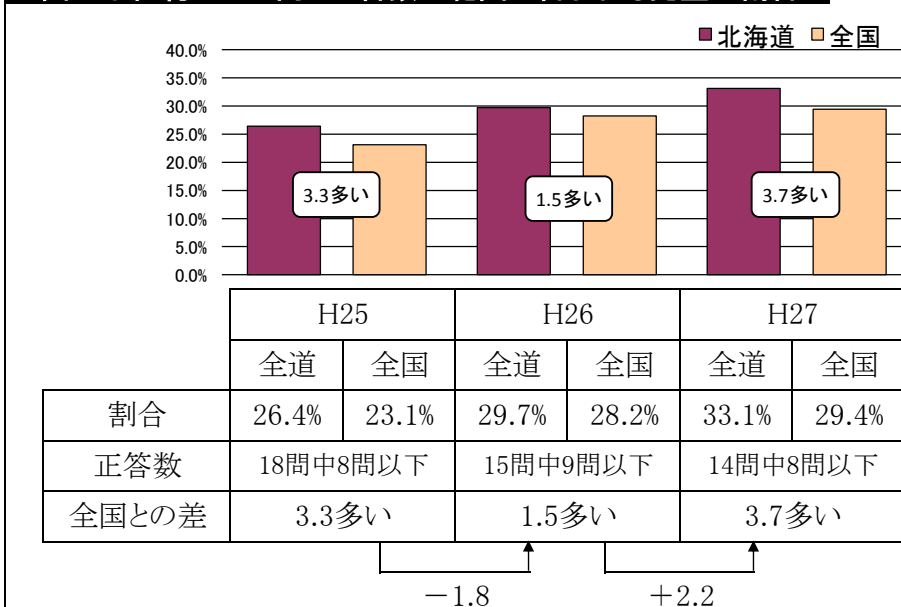
8問以下の割合	33.1	29.4
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、8問以下の正答数（正答率は57.1%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



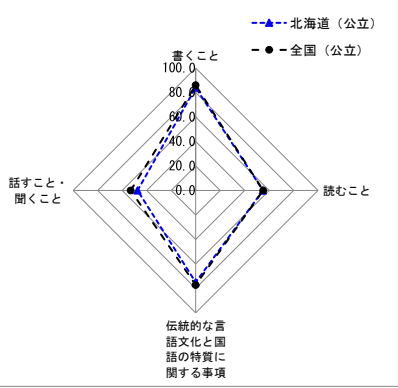
設問別調査結果 [小学校・国語A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,076	20,004		42,068	1,061,264
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（％）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
学習指導要領の領域等	全体	14	68.1	70.0	
	話すこと・聞くこと	1	47.4	53.0	
	書くこと	1	84.0	86.0	
	読むこと	4	55.0	55.2	
評価の観点	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	75.0	77.2	
	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	47.4	53.0	
	書く能力	1	84.0	86.0	
	読む能力	4	55.0	55.2	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	9	75.0	77.2	
	選択式	7	63.7	66.4	
	短答式	7	72.5	73.7	
	記述式	0			

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の建旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1－1	漢字を読む （友人を家に招く）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5-6 (1)ウ (ア)					○	○		97.3	97.5	0.6	0.7
1－2	漢字を読む （自分の信念をつらぬく）					5-6 (1)ウ (ア)					○	○		96.3	96.0	0.8	0.9
1－3	漢字を読む （全員がすぐに承知した）					5-6 (1)ウ (ア)					○	○		91.2	92.5	3.0	2.5
1ニ1	漢字を書く （シャワーをあびる）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5-6 (1)ウ (ア)					○	○		57.2	58.4	19.0	17.2
1ニ2	漢字を書く （鳥の姿を観察する）					5-6 (1)ウ (ア)					○	○		73.8	76.5	8.0	5.7
1ニ3	漢字を書く （びょういんに行く）					5-6 (1)ウ (ア)					○	○		69.3	74.9	7.1	4.7
2－	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える				1-2 (1)イ (カ)					○	○		47.8	53.1	0.6	0.6
2ニ	文の型として適切なものを選択する	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える				3-4 (1)イ (キ)					○	○		68.5	71.7	0.5	0.5
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	5-6 エ					○			○			47.4	53.0	0.5	0.5
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く		3-4 ウ					○		○			84.0	86.0	0.3	0.3
5－	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える			5-6 ウ				○		○			57.9	59.5	1.6	1.6
5ニ	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く				5-6 ウ				○			○		22.2	19.8	7.9	7.7
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	登場人物の相互関係を捉える			5-6 エ				○		○			66.1	67.5	2.5	2.6
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る			5-6 イ	3-4 (1)イ (オ)				○	○	○		74.0	73.9	4.2	4.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	4／18問	3／15問	3／14問
無解答率が全国以下の設問数	8／18問	8／15問	9／14問
無解答率が5％以上の設問数	12／18問	3／15問	4／14問

■ 小学校国語B

【概要】

- 平均正答率は、63.0%
- 全国の平均正答率との差は、－2.6ポイント（平成26年度）から－2.4ポイントに縮まった

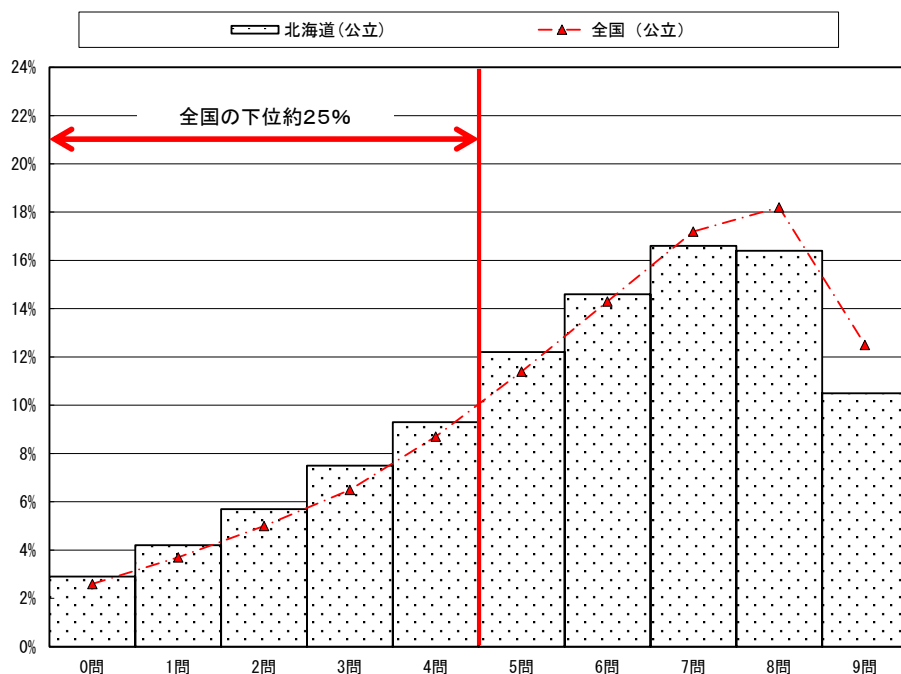
	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,050	5.7 / 9	63.0	6.0	2.4
全国（公立）	1,061,093	5.9 / 9	65.4	6.0	2.4

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	2.9	2.6
1問（11.1%）	4.2	3.7
2問（22.2%）	5.7	5.0
3問（33.3%）	7.5	6.5
4問（44.4%）	9.3	8.7
5問（55.6%）	12.2	11.4
6問（66.7%）	14.6	14.3
7問（77.8%）	16.6	17.2
8問（88.9%）	16.4	18.2
9問（100.0%）	10.5	12.5

4問以下の割合	29.6	26.5
---------	------	------

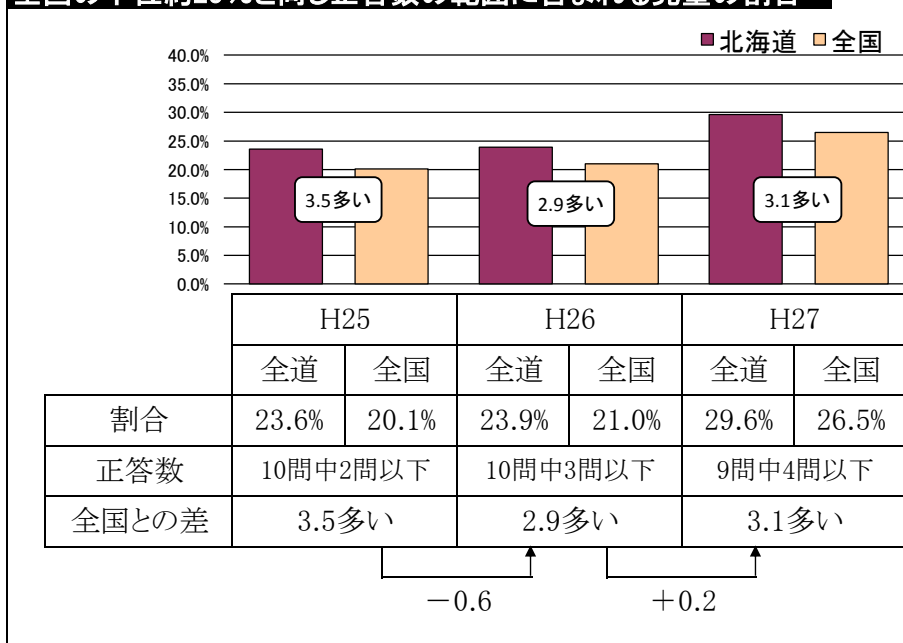
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。



● 全国の下位約25%は、4問以下の正答数（正答率は44.4%以下）。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



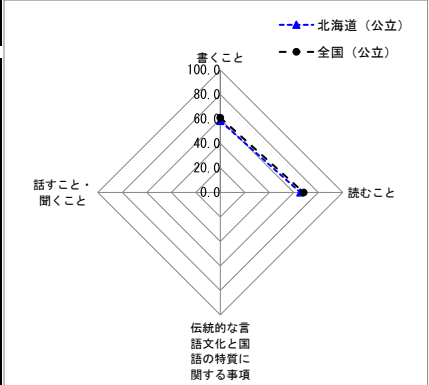
設問別調査結果 [小学校・国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,076	20,003		42,050	1,061,093
分類	区分		対象設問数 （問）	平均正答率（％）	
				北海道（公立）	全国（公立）
全体			9	63.0	65.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		0		
	書くこと		6	58.4	61.1
	読むこと		6	65.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		4	52.1	55.4
	話す・聞く能力		0		
	書く能力		6	58.4	61.1
	読む能力		6	65.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能		0		
問題形式	選択式		3	66.7	68.6
	短答式		2	79.3	80.8
	記述式		4	52.1	55.4

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1一	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	5・6 イ					○			○			72.8	74.6	0.6	0.5
1二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	5・6 ウ					○			○			69.0	70.8	0.7	0.6
1三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	5・6 ウ				○	○				○		33.1	34.7	5.0	4.0
2一ア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	目的に応じ、中心となる語や文を捉える			3・4 イ				○			○		74.3	75.5	4.3	3.6
2一イ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く				3・4 イ				○			○		84.3	86.0	6.6	5.6
2二	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	5・6 ウ	5・6 ウ		○		○	○			○		77.0	78.4	8.3	7.0
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	5・6 エ	5・6 ウ		○		○	○			○		37.7	41.6	12.0	8.7
3一	〈絵3〉の場面が始まるままとりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える			3・4 ウ				○		○			58.2	60.4	10.5	9.7
3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	5・6 ウ	3・4 ア		○		○	○			○		60.6	66.6	19.3	15.1

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	0／10問	0／10問	0／9問
無解答率が全国以下の設問数	1／10問	0／10問	0／9問
無解答率が5％以上の設問数	8／10問	7／10問	6／9問

■ 小学校算数A

【概要】

- 平均正答率は、72.3%
- 全国の平均正答率との差は、-2.3ポイント（平成26年度）から-2.9ポイントに広がった

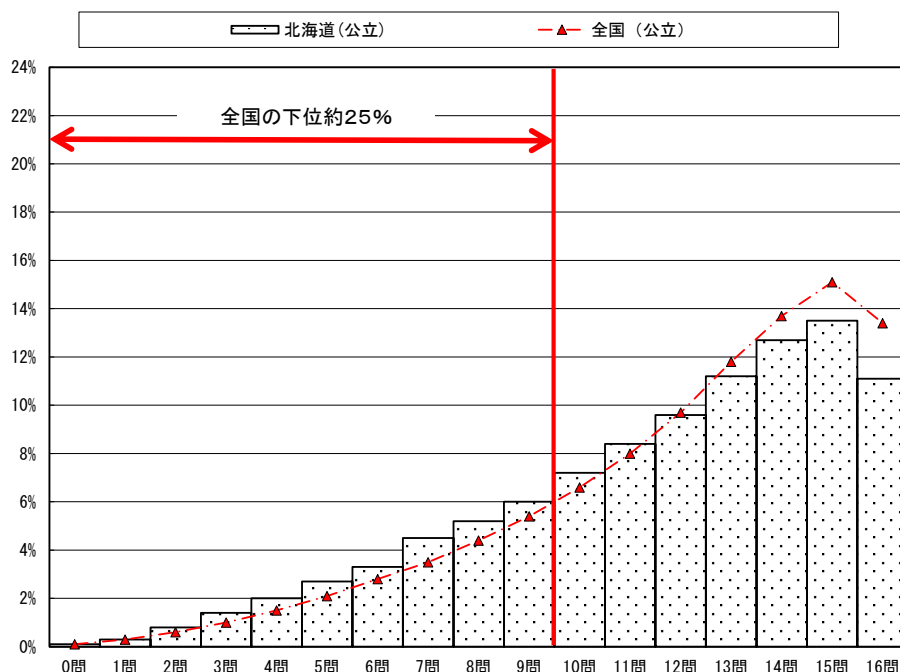
	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,065	11.6 / 16	72.3	12.0	3.6
全国（公立）	1,061,301	12.0 / 16	75.2	13.0	3.4

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.1	0.1
1問（6.3%）	0.3	0.3
2問（12.5%）	0.8	0.6
3問（18.8%）	1.4	1.0
4問（25.0%）	2.0	1.5
5問（31.3%）	2.7	2.1
6問（37.5%）	3.3	2.8
7問（43.8%）	4.5	3.5
8問（50.0%）	5.2	4.4
9問（56.3%）	6.0	5.4
10問（62.5%）	7.2	6.6
11問（68.8%）	8.4	8.0
12問（75.0%）	9.6	9.7
13問（81.3%）	11.2	11.8
14問（87.5%）	12.7	13.7
15問（93.8%）	13.5	15.1
16問（100.0%）	11.1	13.4

9問以下の割合	26.3	21.7
---------	------	------

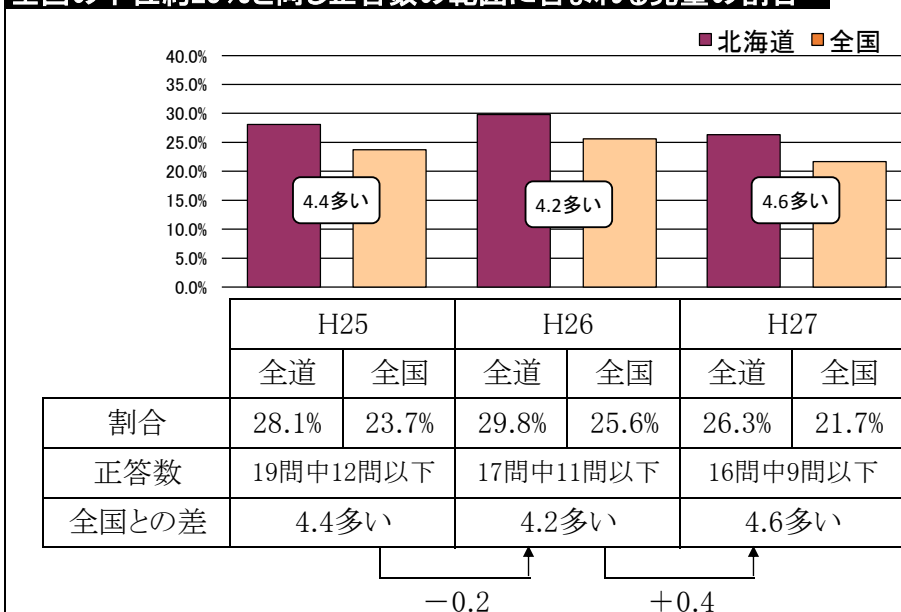
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。



● 全国の下位約25%は、9問以下の正答数（正答率は56.3%以下）。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

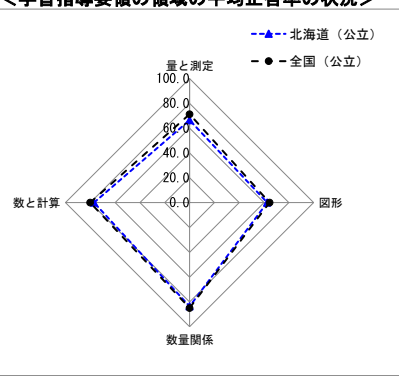


設問別調査結果 [小学校・算数A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,076	20,004		42,065	1,061,301
分類	区分	対象設問数 （問）	平均正答率（％）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体		16	72.3	75.2	
学習指導要領の領域	数と計算	7	77.0	80.1	
	量と測定	3	66.5	71.3	
	図形	4	62.6	64.5	
	数量関係	2	83.6	84.9	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	7	72.9	77.2	
	数量や図形についての知識・理解	9	71.7	73.6	
問題形式	選択式	5	68.3	70.5	
	短答式	11	74.1	77.3	
	記述式	0			

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1（1）	8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	4A (2)アウ								○	○		69.4	71.0	0.6	0.6
1（2）	5.21+0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	4A (2)ア 4A (5)アイ						○			○		70.5	74.3	1.4	1.1
1（3）	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	加法における計算の確かめの方法を理解している	2A (2)ウ 3A (2)ウ 4A (5)イ							○		○		82.1	82.0	2.1	2.0
2（1）	28+72を計算する	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	2A (2)ア						○			○		98.2	98.2	0.2	0.2
2（2）	6.79-0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	4A (5)イ						○			○		68.5	69.5	0.8	0.7
2（3）	5÷9-1÷4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	5A (4)オ						○			○		77.6	81.4	2.5	1.8
2（4）	5÷6÷7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	5A (4)カ						○			○		72.7	84.2	9.6	4.1
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	3B (3)イ						○			○		71.7	74.8	1.5	1.0
4（1）	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	4B (2)アイ							○	○			76.5	81.3	0.4	0.3
4（2）	分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B (2)アイ						○			○		51.4	58.0	0.6	0.5
5（1）	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	3C (1)アウ							○	○			48.9	50.6	2.0	1.6
5（2）	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる	3C (1)アイウ 5C (1)ウ							○		○		62.2	64.5	3.2	2.4
6（1）	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる	2C (1)ウ 4C (2)ア 5C (1)イ							○		○		73.6	75.4	2.7	2.1
6（2）	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している	2C (1)ウ 4C (2)ア							○	○			65.6	67.6	3.8	3.4
7	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	グラフに表されている事柄を読み取ることができる	3D (3)ア 5D (4)								○	○		80.9	81.8	2.8	2.3
8	○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる	3D (2)ア 4D (2)ア								○	○		86.2	88.1	5.5	4.6

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	3／19問	1／17問	2／16問
無解答率が全国以下の設問数	5／19問	7／17問	2／16問
無解答率が5％以上の設問数	1／19問	0／17問	2／16問

■ 小学校算数B

【概要】

- 平均正答率は、42.5%
- 全国の平均正答率との差は、－3.0ポイント（平成26年度）から－2.5ポイントに縮まった

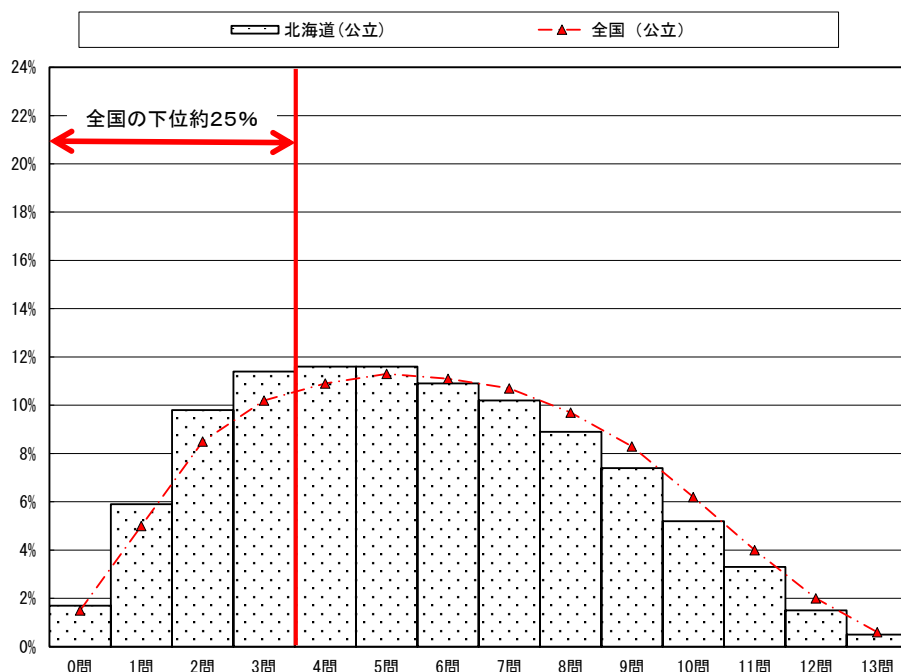
	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,041	5.5 / 13	42.5	5.0	2.9
全国（公立）	1,061,063	5.9 / 13	45.0	6.0	3.0

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	1.7	1.5
1問（7.7%）	5.9	5.0
2問（15.4%）	9.8	8.5
3問（23.1%）	11.4	10.2
4問（30.8%）	11.6	10.9
5問（38.5%）	11.6	11.3
6問（46.2%）	10.9	11.1
7問（53.8%）	10.2	10.7
8問（61.5%）	8.9	9.7
9問（69.2%）	7.4	8.3
10問（76.9%）	5.2	6.2
11問（84.6%）	3.3	4.0
12問（92.3%）	1.5	2.0
13問（100.0%）	0.5	0.6

3問以下の割合	28.8	25.2
---------	------	------

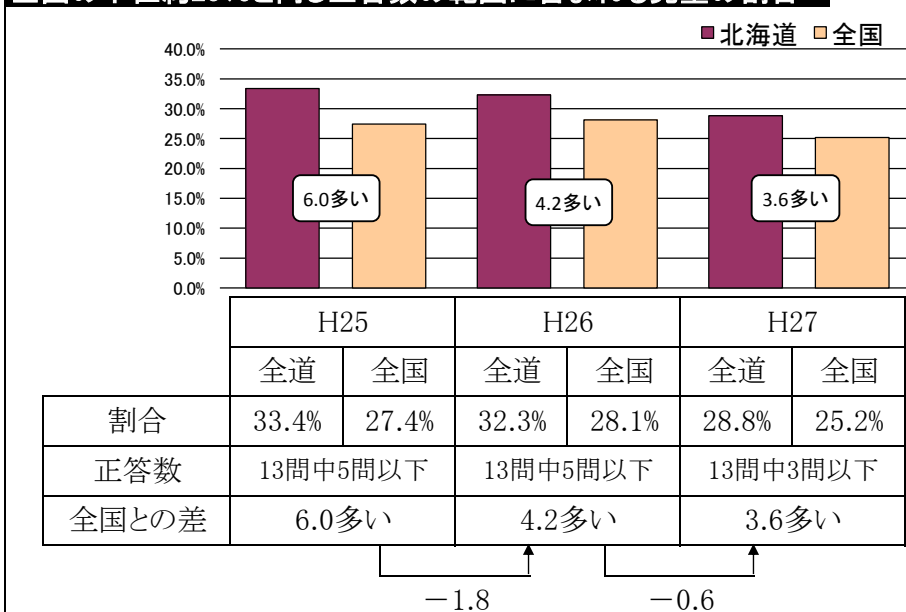
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。



● 全国の下位約25%は、3問以下の正答数（正答率は23.1%以下）。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

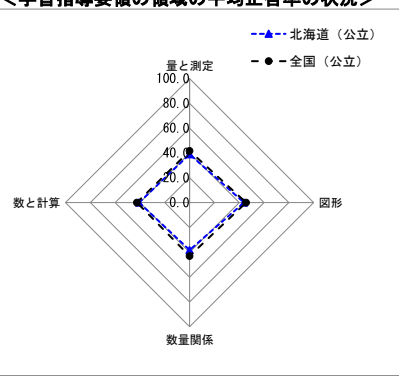


設問別調査結果 [小学校・算数B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,076	20,001		42,041	1,061,063
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（％）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
学習指導要領の領域	全体	13	42.5	45.0	
	数と計算	4	40.7	42.4	
	量と測定	3	39.0	41.7	
	図形	7	43.9	45.6	
評価の観点	数量関係	3	38.2	43.0	
	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	32.3	35.3	
	数量や図形についての技能	2	55.4	58.7	
問題形式	数量や図形についての知識・理解	2	75.0	74.9	
	選択式	3	70.2	70.6	
	短答式	5	39.2	42.2	
	記述式	5	29.0	32.5	

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1（1）	平行四辺形を構成することができる。四つの辺の組み合わせを選ぶ	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している			4C (1)イ						○	○		94.6	95.2	0.1	0.1
1（2）	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している			4C (1)アイ						○	○		55.4	54.6	1.3	1.0
1（3）	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見いだし、その図形の性質を記述できる			4C (1)アイ			○				○		24.7	27.7	18.4	14.3
2（1）	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる		5B (4)ア		4D (2)ア		○				○		61.0	64.8	0.4	0.3
2（2）	20％増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる				5D (3)		○				○		8.9	13.1	5.8	4.5
2（3）	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見いだし、正しい求め方と答えを書く	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる				5D (3)		○				○		44.7	51.0	16.2	12.8
3（1）	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持ってよいかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	3A (4)ア 5A (1)イ		3C (1)ア			○				○		32.7	32.5	8.8	6.7
3（2）	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30°になる理由を記述できる			3C (1)アイ 5C (1)イ ウ			○				○		43.7	49.1	25.2	18.9
4（1）	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	4A (2)アイ					○				○		49.9	52.6	3.0	2.4
4（2）	切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	4A (2)アウ					○				○		60.5	62.0	4.5	3.9
4（3）	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	4A (2)アイウ					○				○		19.8	22.3	19.1	15.3
5（1）	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	4B (1)アイ 5B (1)ア		2C (1)イ 4C (1)イ 5C (1)イ			○				○		12.2	12.5	26.7	21.0
5（2）	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	4B (1)アイ 5B (1)ア		2C (1)イ 4C (1)イ 5C (1)イ			○				○		43.8	47.8	21.4	17.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

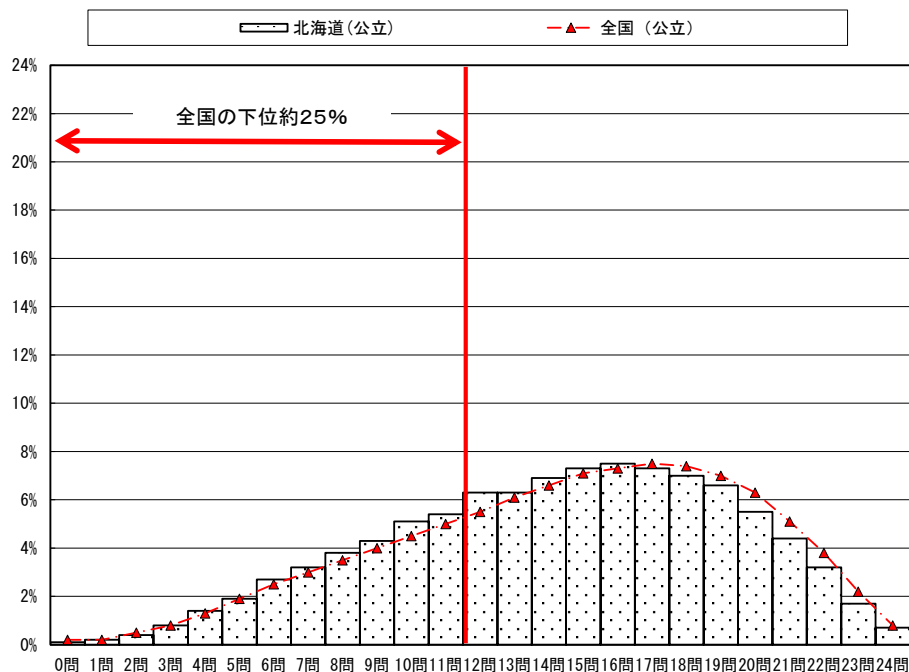
	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	0／13問	1／13問	2／13問
無解答率が全国以下の設問数	0／13問	1／13問	1／13問
無解答率が5％以上の設問数	6／13問	4／13問	8／13問

■ 小学校理科

【概要】

- 平均正答率は、59.3%
- 全国の平均正答率との差は、－2.3ポイント（平成24年度）から－1.5ポイントに縮まった

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,049	14.2 / 24	59.3	15.0	4.9
全国（公立）	1,060,792	14.6 / 24	60.8	15.0	5.0



● 全国の下位約25%は、11問以下の正答数（正答率は45.8%以下）。

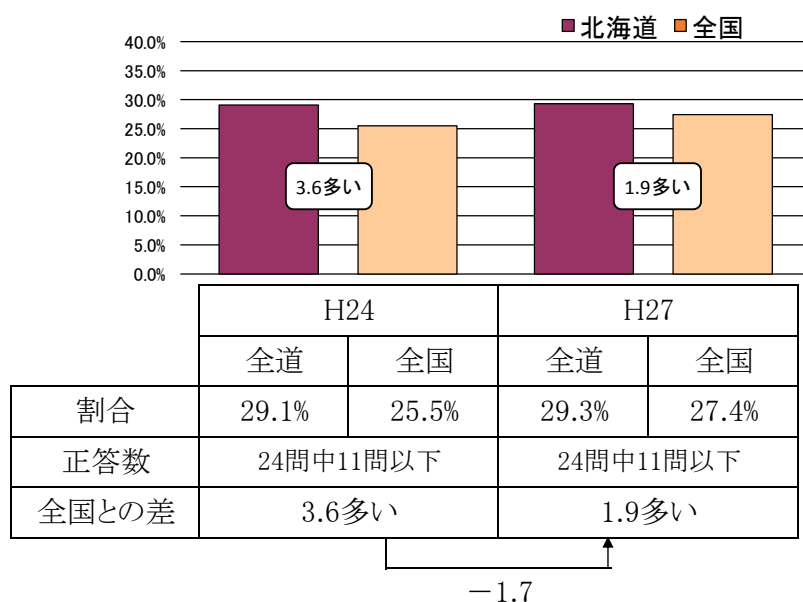
正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0 問 (0.0%)	0.1	0.2
1 問 (4.2%)	0.2	0.2
2 問 (8.3%)	0.4	0.5
3 問 (12.5%)	0.8	0.8
4 問 (16.7%)	1.4	1.3
5 問 (20.8%)	1.9	1.9
6 問 (25.0%)	2.7	2.5
7 問 (29.2%)	3.2	3.0
8 問 (33.3%)	3.8	3.5
9 問 (37.5%)	4.3	4.0
10 問 (41.7%)	5.1	4.5
11 問 (45.8%)	5.4	5.0
12 問 (50.0%)	6.3	5.5
13 問 (54.2%)	6.3	6.1
14 問 (58.3%)	6.9	6.6
15 問 (62.5%)	7.3	7.1
16 問 (66.7%)	7.5	7.3
17 問 (70.8%)	7.3	7.5
18 問 (75.0%)	7.0	7.4
19 問 (79.2%)	6.6	7.0
20 問 (83.3%)	5.5	6.3
21 問 (87.5%)	4.4	5.1
22 問 (91.7%)	3.2	3.8
23 問 (95.8%)	1.7	2.2
24 問 (100.0%)	0.7	0.8

11問以下の割合	29.3	27.4
----------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

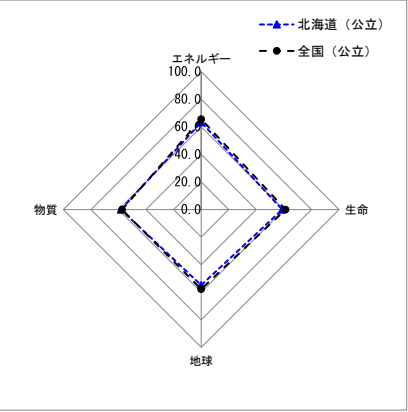


設問別調査結果 [小学校・理科]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,076	19,861		42,049	1,060,792
分類	区分		対象設問数 （問）	平均正答率（％）	
				北海道（公立）	全国（公立）
全体			24	59.3	60.8
枠組み	主として「知識」に関する問題		9	61.1	61.3
	主として「活用」に関する問題		15	58.2	60.5
学習指導要領の区分等	Ａ区分	物質	7	58.2	57.4
		エネルギー	6	63.3	65.6
	Ｂ区分	生命	6	58.8	61.2
		地球	7	54.9	57.8
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度		0		
	科学的な思考・表現		15	58.2	60.5
	観察・実験の技能		5	56.5	55.5
	自然現象についての知識・理解		4	66.7	68.6
問題形式	選択式		18	61.1	62.9
	短答式		3	66.0	63.6
	記述式		3	42.0	45.3

＜学習指導要領の区分等の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の区分等				評価の観点				問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
				Ａ区分		Ｂ区分		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
				物質	エネルギー	生命	地球											
１（１）	振り子が１往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる	○		5A (2)ア			○				○			76.9	77.6	0.2	0.2
１（２）	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	○		5A (2)ア			○				○			55.9	61.2	0.7	0.7
１（３）	振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだだけを書く	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる	○	4A (2)ア	5A (2)ア			○					○		60.7	62.8	1.2	1.1
１（４）	電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ	電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる	○		3A (4)イ 5A (2)ア (3)ア			○				○			51.3	53.2	1.6	1.3
１（５）ア	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	○		4A (3)ア 5A (3)イ			○				○			70.5	72.7	1.0	0.9
１（５）イ			○		4A (3)ア 5A (3)イ			○				○			64.6	66.2	1.1	1.0
２（１）	メダカのめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	○		5B (2)ア							○	○		74.9	78.0	0.4	0.3
２（２）よし子	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	○		5B (1)ア (2)アイウ			○				○			73.6	76.3	0.7	0.6
２（２）ひろし			○		5B (1)ア (2)アイウ			○				○			68.6	69.0	0.8	0.8
２（３）	示された器具（顕微鏡）の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している	○		5B (2)イ					○			○		58.5	61.6	17.2	16.1
２（４）	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている	○		5B (2)イ					○		○			36.2	37.9	1.0	1.0
２（５）	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだだけを書く	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる	○		5B (1)ウ 3B (3)ア			○					○		41.0	44.2	3.1	2.8
３（１）	水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している	○	4A (2)ウ								○	○		82.7	81.9	0.6	0.5
３（２）	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○	4A (2)イ				○				○			52.3	54.0	0.7	0.7
３（３）	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる	○	4A (2)イ				○				○			51.7	51.7	1.3	1.1
３（４）	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	○		5A (1)イ					○			○		82.7	70.7	6.9	10.7
３（５）	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	○		5A (1)イ					○		○			53.3	51.7	2.9	2.9
３（６）	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだだけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	○	5A (1)イ				○					○		24.3	28.9	6.4	5.7

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の区分等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	A区分		B区分		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
					物質	エネルギー	生命	地球											
4（1）	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる		○				48 (4)アウ		○			○			36.6	41.0	2.4	2.0
4（2）	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	○					48 (4)ア				○	○			52.6	56.1	2.4	2.0
4（3）	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている	○					48 (4)ウ			○		○			52.0	55.3	2.6	2.2
4（4）	観察した星座や雲の動きを選ぶ	星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる		○				48 (4)ウ		○			○			62.6	65.0	3.4	3.0
4（5）	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	○					48 (3)イ				○		○		56.8	58.5	16.1	15.2
4（6）	地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ	打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる		○				48 (3)イ		○			○			82.9	84.2	4.6	4.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H24	H27
平均正答率が全国以上の設問数	3／24問	4／24問
無解答率が全国以下の設問数	7／24問	7／24問
無解答率が5%以上の設問数	6／24問	4／24問